



## 夫婦杉と表参道石段

横倉山の第2駐車場手前の「横倉宮」の鳥居をくぐると、杉原神社から横倉宮へ至る数百年の歴史を有すると言われている表参道の長い石段がある。

昔の参拝者や登山者はこの石段を利用した。登り口には、「安徳天皇従臣 淡路守清房<sup>\*</sup>之墓」とその小祠が建っており、昔は、ここから先は「女人禁制」の修験道の霊場であった。現在は「四国のみち」（横倉修験のみち）に指定されている。一帯は神社地なので周りは原生林が広がっていて、何となく歴史と荘厳さを感じさせられる。

石段を375段登った所に、二本の杉の幹が根元近くで合体した「夫婦杉」（推定樹齢：300～400年）が立ちはだかり、すぐ横にある一本の杉とちょうど神社の「鳥居」か“山門”のようになっていて、そこを通り抜けていく格好になっている。

夫婦杉を通り抜けて、石段を43段登った突き当たりには、小湧水がある。江戸時代の文化年間に書かれた土佐の書物である『南路志』（1805～1813）の中の「詣金峯山紀行」によると、かつてここに“御手洗”と呼ばれる、杉原神社や横倉宮への参拝者が手や口を清めた小さな泉があったらしい。何とかして当時の面影を甦らせたいものである。

石段にも特徴があって、ここの参道の石段に使用されている石にも変化があることに気付く。すなわち、夫婦杉のすぐ手前までの石段の石は、そのほとんどが日本最古の4億年前の石灰岩が使用されている。淡いピンク色をした美しい“土佐桜”

石灰岩である。そして、ここから杉原神社までは、斜面上方に石灰岩が分布しているため、別のやはり4億年前の古い花コウ岩が主に使用されている。夫婦杉から杉原神社に至る石段は199段あり、結局表参道の石段は合計607段もあることになり、讃岐の金刀比羅宮に次いで多いと言われている。春まだ浅い3月初めに登った時は、地元民の手によって参道がきれいに掃き清められていた。参道沿いには所々に杉の大木が生えているが、これらは神社境内の樹齢500～600年の大杉よりは若く300年前後のもので、かつての参拝者が挿し木したものが大きくなったものであると言われている。

石段の周囲はすべて原生林なので、5月中頃になると、この辺りでよくヤイロチョウ〔高知県の県鳥・県指定天然記念物〕の鳴き声を聞くことができる。13年前、“御手洗”のすぐ上の参道沿いで鳴き真似をしていると、突然目の前にヤイロチョウが姿を現わした。霧雨が降っていて少し薄暗かったが、腹部の鮮やかな赤い羽毛が今でも目に焼き付いている。初めてのヤイロチョウとの出遭いであった。その後、幸運にも私は、第3駐車場脇の森（“アカガシの原生林”）の中で、木に止まって鳴いている姿にも出遭えた。こんな間近で、日本の渡り鳥の中で最も美しいと言われる“幻の鳥”を見ることができ感激した。やはり、自然豊かな森が残っているためであろうか。横倉山では実にいろんな感動的な“出会い”がある……。

<sup>\*</sup>平清盛の七男で、知盛の弟

## 横倉山の巨木たち

大 倉 浩 典

“植物の宝庫・巨木の森”横倉山と言われながら、植物調査も巨木調査もほとんど行われていない不思議な山ですが、巨木については過去に一度だけ調査された記録が残っております。それは、昭和46（1971）年10月に高知県が発行した『土佐の名木』を編集するに当たり、昭和44年に古木・巨木の調査を各市町村に依頼、越知町でも町内の古木・巨木の調査をし県に報告、最終的に『高知県名木一覧』に登録されたもので、越知町関係の中で横倉山に関するものは次の通りです。

①楠神のイヌマキ 「場所は越知町楠神で幹周り3.1m・樹高15m、部落道路に接してあり」。40年余りたった現在では幹周りも46cm大きくなり3.56mで健在。

②横倉山のスギ群 「場所は越知町横倉山杉原神社で樹齢500年、最大のものは幹周り7.0m・樹高35mに達し、それに準ずるもの約5本、幹周り3.5m以上のもの約25本、いずれも樹高35m以上で直通、下枝少なく良形質をもつ」とあり、いずれも40年余りたった現在でも健在で、最大のものは幹周りは7.45mに成長している。

③御嶽神社のアカガシ 「場所は越知町横倉山御嶽神社前、幹周り3.8m・樹高22m、参道鳥居の前にあり、高さ4mで2岐する」とあり、このアカガシも健在で幹周りも4.40mに成長している。

④遊場のアカガシ 「場所は越知町横倉山安徳天皇陵墓参考地西、幹周り4.6m・樹高25m、御陵

参考地の西歩道の北側で林道に近い所に生ず、内部空洞で同所一帯にアカガシの巨樹はなはだ多し」とありますが、平成16（2004）年の台風16号の直撃で多くの巨木が被害を受けたにも拘らず、このアカ

ガシは枝は傷んだものの健在で、現在は幹周りも5.25mとなり威容を保っております。

⑤横倉山のウラジロガシ群 「場所は越知町横倉山、幹周り3.8m・樹高20m、林中にウラジロガシの大木多し、計測したものは杉原神社西のキャンプ場から西の歩道の下にあるもの」とあり、このウラジロガシも大きい枝が一本折れたものの本体は健在で、現在幹周り4.45m。

⑥楠神のウラジロガシ 「場所は越知町楠神仁井田五所神社で、幹周り5.2m・樹高18m、社叢中の道路の下側岩上に生じ根張り壮大で3本に分岐し東に傾いている」とある。幹周りは北1.3m、中1.9m、南2.0mの合計5.2mですが、40年たった現在では中と南の2本は倒壊枯死、北側の1本だけが健在するものの、巨木ではなくなっていました。

⑦横倉山のカツラ 「場所は越知町横倉山、幹周り7.5m・樹高23m・樹齢500年、夫婦杉より杉原神社までの参道の南側林中に生じ10数本樹立」とありますが、このカツラの巨木は現在では枯死消滅し見当たりません。

以上のように、過去に一部の巨木について調査がなされた記録がありますが、横倉山全体で巨木が何本あるかは全く不明です。そういうことで平成12（2000）年から始めた植物調査と併せて、マムシやスズメバチの心配のない冬場に、元館長の斎藤さんと館職員の小松君、時には体験学習にやってきた地元越知中学校の生徒さんたちの助けを借りながら調査を続け、一部未調査の部分もありますが、平成21（2009）年2月現在横倉山の巨木は、16種243本確認できました。内訳を8ブロックに分けて紹介すると次のようになります。

① 第3駐車場周辺から杉原神社手前の安徳天皇従臣「飛驒守景家之墓」周辺までの約350mの間：巨木19本（シイ10本、アカガシ6本、ウラジロガシ3本）。

② 第2駐車場から夫婦杉周辺：22本（スギ14本、アカガシ4本、ウラジロガシ3本、ケヤキ1本）

③ 夫婦杉の上の別れ道の両側から杉原神社周辺の最も巨木の多い場所：109本（スギ91本、アカ





ガシ9本、ウラジロガシ3本、クマシデ2本、アズサ2本、カツラ1本、モミ1本)

④ 山小屋から横倉宮周辺：20本（アカガシ10本、ウラジロガシ4本、スギ3本、カツラ2本、モミ1本）

⑤ 安徳天皇陵墓参考地周辺：横倉山における暖温帯上部の代表的な森林で、アカガシを中心にモミ・ウラジロガシが多く見られ、巨木は59本（アカガシ29本、モミ14本、スギ8本、ウラジロガシ7本、ホオノキ1本）

⑥ 畝傍山眺望所から住吉・空池周辺（一部未調査）：5本（ウラジロガシ2本、アカガシ1本、モミ1本、カツラ1本）

⑦ 横倉宮からカプト嶽までの南遊歩道沿い（一部未調査）：5本（アカガシ3本、ツガ1本、ヒノキ1本）

⑧ 楠神周辺：4本（クスノキ1本、タブノキ1本、イヌマキ1本、コバンモチ1本）

以上、243本の巨木を樹種別にまとめると、スギ116本、アカガシ62本、ウラジロガシ22本、モミ17本、シイ10本、カツラ4本、クマシデ2本、アズサ2本、ケヤキ1本、ヒノキ1本、ツガ1本、ホオノキ1本、クスノキ1本、イヌマキ1本、タブノキ1本、コバンモチ1本。

次に、それぞれの樹種について大きさ別に分けると次のようになります。

#### （1）スギ；116本

幹周り：7.0m（1本）、6.0m（4本）、5.0m（10本）、4.0m（21本）、3.0m（80本）

スギで最も大きいのは、杉原神社境内にあるしめ縄が巻かれた御神木の大き杉で幹周り7.45m。2番目は神社の鳥居手前の表参道の石段を20段上った右側のスギで6.38m、3番目は夫婦杉の6.30m、4番目が境内の上記大杉の隣の杉で6.25mです。

#### （2）アカガシ；62本

幹周り：6.0m（2本）、5.0m（6本）、4.0m（14本）、3.0m（40本）

現在横倉山で最も大きいアカガシは、陵墓参考地の東南の角近くにある、根元から1.0mの所で2岐し枝の途中にアオテンナンショウが着生したもので、幹周り3.7m+2.7m=6.40m、2番目は夫

婦杉の上の別れ道から表参道を70段上った所の、2本の巨木のスギの間をくぐり左側の藪の間から見上げた崖の途中に見えるもので、幹周り6.02mです。ちなみに、「土佐の名木」に登録された遊場の空洞のものは4番目になります。

#### （3）ウラジロガシ；22本

幹周り：6.0m（1本）、5.0m（1本）、4.0m（4本）、3.0m（16本）

一番大きなウラジロガシは、第3駐車場から上ってきて「飛騨守景家之墓」の前から近道で杉原神社に至る小道の途中のもので、4本立で幹周り6.08m、2番目は陵墓参考地西側の森の中のもので5.0m、「土佐の名木」に登録されたキャンプ場西のものは4.45mで3番目です。

#### （4）シイノキ

横倉山では、標高600m前後がシイ類の生育の限界で、第3駐車場付近では多く見られますが杉原神社から奥では見られません。また、シイノキはスタジイとコジイに分けられますが、古木になると花は咲かず実もならないので同定が難しく、「シイノキ」として扱えば、巨木は10本、幹周り4.0m以上のもの2本、3.0m以上のもの8本です。1番大きいものは、第3駐車場から遊歩道を上り突き当たりを右に曲がってすぐ横の4.55m、2番目は第3駐車場下の林道上の森の中の4.15mのもので、このすぐ横に絶滅危惧ⅠA類で横倉山がタイプの幹周り1.35mのフジキの大木があります。

#### （5）モミノキ

巨木は17本確認しましたが、ほとんどが幹周り3.0m台で、4.0mを越すのは2本だけです。しかも、杉原神社裏の崖の上にあった幹周り4.7mで、幹の途中にヤシャビシヤク〔絶滅危惧種ⅠA類〕が着生した横倉山最大のものは、倒れた場合社殿を損壊する恐れがあるということで、平成17（2005）年11月に伐採されたので、幹周り4.25mのものが1本だけ陵墓参考地西側の森の中で頑張っております。

#### （6）カツラ

「土佐の名木」で紹介された幹周り7.5mの10

本立の“大カツラ”は消滅しましたが、現在横倉山には6本のカツラの木があります。内4本が巨木で、1番大きいのは「行在所」<sup>あんざいしよ</sup>付近にある2本のうちのひとつで、2本立で7.25m、もう一つの1本立で屋久島の縄文杉似たものが幹周り4.6mで3番目、2番目は「空池」手前の遊歩道分岐の岩の上に生えている3本立のもので幹周り5.6mです。

## (7) その他

陵墓参考地の鳥居東側にある根元から2本立のホオノキが、併せて幹周り4.03m。横倉山北方の楠神地区の五所神社周辺の、横倉山では滅多に見かけないコバンモチが、何と3.42mもある巨木。

同じ場所でやはり横倉山では全く見かけないイヌマキが3.46mの巨木。この他、地上1.0mで2岐に分かれ併せて6.7mのクスノキ、5.0mのタブノキなど、なかなか面白い場所です。楠神は、かつての御嶽神社（現横倉宮）への表参道上り口で、平知盛を始めとする安徳天皇の従臣の墓が点在する地域でもあり、昔からあまり木を伐採しなかったのではないかとということが関係しているのかもしれない。

以上が「横倉山の巨木たち」の現状報告です。

※実徳天皇が乗馬の練習をされたと言われる“御馬場跡”

(おおくら こうすけ／元高知中央高等学校教頭・植物研究家)

## 仁淀川周辺の自然とその魅力

安井 敏夫

仁淀川は、日本屈指の清流で、愛媛県の石鎚山に源を発する一級河川である。既に紹介したように、仁淀川は、四国を東西方向に帯状に走る異なる地質体（北から三波川帯・秩父累帯・四万十帯）を縦断するように南流するため、日本有数の岩石の種類豊富な誇る。堆積岩（チャート・石灰岩・凝灰岩）、火成岩（花コウ岩・ヒン岩・安山岩・玄武岩）、変成岩（緑色片岩）、超塩基性岩（蛇紋岩）など実にさまざまである。凝灰岩を一つとっても、海底の火山活動（塩基性凝灰岩）、陸上の火山活動（酸性凝灰岩）の産物など生成場所の異なるものが見られる。また、これら多種多様の岩石は、その形成された年代も4億年前～1億2000万年前と幅広い。石の種類豊富なことながら、色彩が豊かなことも仁淀川の川石の特徴の一つと言える。そのため、これを使った大和

絵の顔料である岩絵具の製作も可能で、赤褐・赤紫・灰紫・黄緑・淡緑・黄土・暗灰色などのカラフルで上品な色の絵具が取れる。

仁淀川とその流域で見られる土佐を代表する主な石を少し紹介すると、

“土佐の赤石”<sup>※</sup>：本来は旧仁淀村の白木谷層群中の赤色チャートを指すようであるが、珪質頁岩というべきものも含まれる。庭石として珍重がられ、高岡郡内の旧家の庭の築山に複数使用されているのを見たことがある。時代は古生代ペルム紀。

“土佐の青石”：越知町以南に見られる、極めて均質な青灰色の砂岩で、石垣、擁壁、墓石などに使用されている。時代は中生代白亜紀。

“五色の石”<sup>こしき</sup>：五つの色をしたチャートのことで、微量に含まれる不純物によって色が異なってくる。白（純粹）、赤（鉄）、緑（緑泥石）、紫（赤鉄鉱）、黒（有機物）がある。“月の名所桂浜”のものが有名で、仁淀川から運ばれて行ったもの。ちなみに、高知県にはチャートが多く、古代人の石器（石鏃）の材料はほとんどがこれである。また、Mn（マンガ）を胚胎するのも高知県の場合チャートである。

菊花石<sup>まっか せき</sup>：海底火山活動に伴う塩基性凝灰岩中に晶出した炭酸塩鉱物（方解石）の結晶の集合体が菊の花びらのように見えるもので、日本で二番目に高知県で見つかった。“土佐の三奇石”の一つで、仁淀川沿いの越知町と日高村の境、仁淀川と上八



四国カルスト

川川が合流するいの町などでかつて見られた。ちなみに、最初の発見地である岐阜県根尾谷産のものは国の特別天然記念物に指定されている。

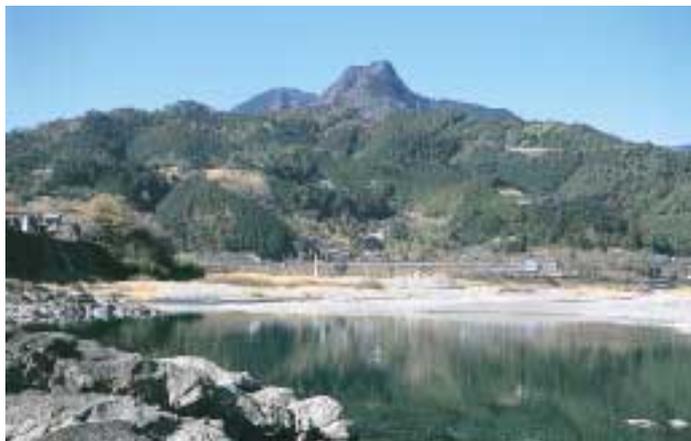
この他、仁淀川では珍しい水石（盆石）が取れることでも知られている。木の枝に白または赤の梅の花が咲いたように見える「梅林石」（“土佐の三奇石”）、岩から滝が流れ落ちるように見える「滝石」などもあり、水石愛好家の間では人気がある。

また、仁淀川流域の段丘などを利用した弥生時代の遺跡からは、仁淀川の石を用いた遺物が見られる。越知町内のものについて言えば、河原の石をそのまま利用した「叩石」〔女川遺跡：縄文後期前半～弥生前期末〕、加工した「磨製石斧」「石包丁」〔ヤケ坂遺跡（旧松山街道）：弥生時代〕などがある。

仁淀川流域からさらに視野を広げると、化石・植物の宝庫で安徳天皇・平家伝説の山である「横倉山」、日本三大カルストの一つである「四国カルスト」、日本最大規模を誇る石灰岩鉱山で植物の宝庫である「鳥形山」などもある。仁淀川に9基ある「沈下橋」も趣があって魅力的である。

これら地域の地質資源を保護し有効に活用、ユネスコの支援する「ジオパーク（地質遺産）」を目指そうと、「仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会」が今年1月21日に発足、「世界ジオパーク」の認証に向けて活動を開始した。仁淀川流域に位置する高知県中央部の6町村（高岡郡佐川町・越知町・仁淀川町・津野町・梶原町・日高村）で構成され、事務局を“日本の地質学の発祥の地”、“地質学のメッカ”と呼ばれる佐川町に置く。

これら6町村に地質学的に共通する現象（“共通項”）は、  
①「黒瀬川構造帯」と呼ばれる大断層帯に位置し、4億年前の化石を含む日本屈指の古い地層や岩石



横倉山と清流仁淀川

が分布し、かつて赤道付近に存在していた「ゴンドワナ大陸」の断片が見られる。その中でも、特に越知町の横倉山ではその分布が広く、日本最古の化石を産し、大陸性地殻である花こう岩が見られ、限らないロマンと謎を秘めている。

②越知町横倉山に代表される日本最古の4億年前の石灰岩〔シルル紀〕、梶原町・津野町・仁淀川にまたがる“日本三大カルスト”で高位高原カルスト台地として知られる「四国カルスト」〔ペルム紀〕、ドイツ人地質学者・ナウマン博士によって世界に紹介された佐川町の「鳥ノ巣石灰岩」〔ジュラ紀〕などの時代の異なるさまざまな石灰岩が分布する。この内、日高村妹背ではその分布は小さいながら、1940年に当時としては日本最古のシルル紀の化石が日本で二番目（西南日本としては最初）に発見された。

このようにして見ると、仁淀川とその流域には、数々の魅力ある地質学的な現象の現れである有用な“資源”が眠っていることがわかる。これらの貴重な資源を保護し、教育・観光など色々な面で活用して、地域の振興・活性化に役立てようとするのが「ジオパーク」の理念である。

※高知県立文学館の外壁に使用されている紫紅色の石（石灰質凝灰岩）も、穴内川（大豊町）上流産の“赤石”であるという。

（やすいとしお／横倉山自然の森博物館副館長兼学芸員）

## 横倉山三二歳時記

### ■博物館で越冬する蝶のサナギ

昨年9月に、まるで自然気のない博物館のコンクリートの外壁の窓枠に、一匹の蝶の蛹が附着しているのを館の職員が見つけ、ずっと観察を続けていたそうです。色は緑色で、頭の先端がツノのように出っ張った奇妙な形をしていて、そこから放射状に筋が何本か走っています。よく見ると、それは葉柄と葉脈のある葉を丸めたようにも見えます。一種の擬態でしょうか？

今年は暖冬で、2月に入ってもう葉の花が咲き始めすっかり春らしくなってきたので、羽化も間近いのではと思いつつ毎日みんなで注意深く観察しています。一体どんなきれいな蝶になるのでしょうか？楽しみです。平安時代中期の『堤中納言物語』の中の「虫愛ずる姫君」に登場する、人のいやがる毛虫を可愛がる個性的な姫と同じ心境でしょうか……。



## 博物館ニュース

### 企画展：「自選展—野並允温の世界—」

〔2008年9月27日(土)～11月3日(月・祝)〕



のなみのほる  
 地元越知町出身の洋画家・野並允温氏（大阪府摂津市在住）の描いた絵画（油絵・水彩画；サイズF4～300）約40点を展示。氏は“旅をする芸術家”と呼ばれ、「日本の真の美は里山にある」を持論に、美しい自然を次世代に継承したいという思いで、心をこめて今ある自然を描き続けているという。今回の作品の画題は、郷里越知町の風景を始めとする自然と世界の最高峰ヒマラヤが中心。氏にとっては初めての郷里での個展で、越知町内の町民や子供たちの観覧が多かった。



氏は、大阪府・高知県（越知町など5ヶ所）で絵画教室講師として、また、摂津市・高知県で小学校絵画課外授業を開催するなど多方面でも

活躍しており、今回も、地元越知町の絵画教室の生徒の作品発表を3階展望ロビーにおいて同時開催した。本会場では、期間限定の『絵画教室』や常時「似顔絵コーナー」もあり、記念に似顔絵を描いてもらう光景も見られた(写真)。

主な感想として、「美しい越知町を再発見した思いです」「細やかで丁寧な筆使い、そして雄大な高山に感激しました」などがあった。

後日、町制施行50周年記念に、『日本の滝百選』の「大樽の滝」を描いた『秋涼』〔たて180㌻×よこ90㌻〕が氏から町に寄贈され、現在当館の開館の際に同氏から寄贈された「横倉山」の大作とともに館内に展示されている。

### 企画展：『川添 晃 水彩画展—土佐日記の世界 1980年の記録より—』

〔2008年12月13日(土)～2009年2月15日(日)〕

芸西天文学習館（高知県安芸郡芸西村）で講師を務める傍ら、いろんな旅先での光景を水彩画に収めてきた川添晃氏（南国市）が、29年前（1980年）に訪れた『土佐日記』に登場する場所を自らが描いた水彩画で紹介。併せて、最近撮った各々の場所の現風景の写真と場面々で詠まれた紀貫之らの和歌の他、地学的な解説を加え、単なる文学的な

観賞に留まらず、地理・地形的な観点をも含めた、従来とは異なる観賞の仕方をしてもらう。

紀貫之が国司の任を終えて京の都へ帰る道中の周りの光景や船中でのいろんな和歌のやりとり、人間模様を垣間見つつ、高知県に関わりの深い1000年以上も前に書かれた『土佐日記』についてさらに関心を深めてもらうことがねらいである。

紀貫之の時代と現在とでは、当然地理・地形（陸地や海の広がり）が大きく変化しているが、29年前と今を比較しても随分と違ってきている。「過去の記録や資料をそのまま放置せず、まとめておかななくては…」という強い思いから今回の企画展の開催が実現した。



### 『越知中学校総合学習』

〔支援：独立行政法人 科学技術振興機構、環境活動支援センターえこらぼ、講師：NPO法人 四国自然史科学研究センター〕

〔2008年5月9日～2009年2月29日、計12回〕

越知中学校1年生の総合学習で、町内の1. 田んぼの生きもの、2. 野生動物、3. 鳥類 について、その生態や体のしくみ・特徴などについて12回にわたり学習する。1. ではカエルの観察、2. では山中に無人カメラを設置、普段滅多に見かけないニホンザルの姿が捕えられた。3. ではバードウォッチングや解剖を行う。

鳥類のシロハラを使った解剖では、哺乳類と違って横隔膜がなくすべての臓器が一緒に収まっていることや、飛ぶための胸筋が発達すること、そして、すぐ飛び立てるように糞を腸内に貯めないように腸が短いことなど生活様式に合った合理的な体のしくみを学習する。また、翼の個々の羽にもそれぞれ違った構造や役目があることも学ぶ。



## 友の会だより

視察研修：『特別天然記念物コウノトリの保護活動と兵庫県・山陰海岸国立公園』

〔2008年11月15日(土)、16日(日)；参加者20名(内事務局2名)〕



「玄武洞」

今回の研修の主な目的は、①横倉山と同じ『日本の地質百選』(日本の地質百選選定委員会)に選ばれた「玄武洞」、②『世界ジオパーク』の認証に向けて「山陰海岸ジオパーク」として取り込んでいる「山陰海岸(国立公園)」、③コウノトリ〔国の特別天然記念物〕の保護・繁殖のために官民一体で環境整備に取り組んでいる「コウノトリの郷公園」(豊岡市)の活動を視察することである。

特に、『世界ジオパーク』(先ずは『日本ジオパーク』)認証に向けて動き始めた越知町を含む高知県中西部地区にとって、他の地域がどのような活動・取り組みを行っているかを視察研修することが大きなねらいである。

遊覧船を利用して「山陰海岸国立公園」の一角にある香住海岸の波蝕地形・洞門・洞窟などの奇岩・景勝地を船長のガイドで見て回る。その後、同じ公園内にある「玄武洞」〔国指定天然記念物〕を見学するが、玄武岩の柱状節理が誰の目にも見事で、ジオパークのサイトにふさわしかった。駐車場の一角にある(財)「玄武洞ミュージアム」は、「玄武洞」の成り立ちの他、世界のさまざまな珍しい鉱物・化石・奇石なども展示されており、観光客を飽きさせない大切な役割を果たす存在である。

『横倉山の“地質遺産(ジオパーク)”を見てみよう』

〔2008年10月16日(木)；参加者 会員5名、一般1名〕

最近わが国でも、ユネスコが支援し「世界ジオパーク委員会」が認証する『ジオパーク(地質遺産)』に登録申請をしようという動きが起こり始め、これまでに「洞爺湖有珠山」(北海道)を始め全国で5ヶ所ほどの地域が名乗りを挙げている。四国では、「四国ジオパーク」として室戸

地域(高知)が申請に向けていち早く取り組んでいて、他に龍ヶ洞、越知・佐川、四国カルスト、足摺岬などが選定の候補地に挙げられている。

「ジオパーク」のサイトには、単に地形・地質学的にすぐれた側面だけでなく、考古学的・生態学的、さらには文化的なものも含まれ、「鉱山・採石場(跡)」なども対象になるという。この観点から、横倉山で昭和30年代までに大々的に採掘され、全国的に人気の高かった日本最古の石灰岩“土佐桜”の採石場の中で、切り出した原石がそのまま放置された採石場跡の一つを整備する目的で、友の会のメンバーと事務局(博物館)で雑木の伐採を行い、当時の現場の様子を再現した。

※昨年10月には、「洞爺湖有珠山」、「糸魚川」(新潟)、「島原半島」(長崎)の3地域が、続いて12月には、「アポイ岳」(北海道)、「南アルプス中央構造線エリア」(長野)、「山陰海岸」(兵庫・鳥取・京都)、「室戸」(高知)の全国7ヶ所が「日本ジオパーク」として認定され、「世界ジオパーク」認証に向けて活動を始めた。

『炭焼き体験』

〔2008年12月6日(土)・27日(土)、2009年1月17日(土)〕

平成17年11月に窯ができて今年で3年目を迎える。平成20年度は現時点で5回目の炭焼きで、2月15日、3月7日にも予定しており、すっかり定着した。当初の木炭から、最近では竹やミカン・カボチャなどの野菜や果物を焼いた置物や消臭剤としての“飾り炭”にも挑戦している。



『初日の出を横倉山で』

〔2009年1月1日(木)；参加者 会員7名、一般(学生)5名〕

今年は、水平線に雲が帯状に広がっていたが、上端が起伏に富みあたかも高山を思わせるような様相で、そこから太陽が昇ってくるという、これまでとは違った趣の初日の出が拝めた。

『スターウォッチング—冬の天の川・すばる—』

〔2009年1月20日(火)；参加者 会員6名、一般3名、講師：片岡重敦(元横倉山自然の森博物館館長)〕

環境省の呼びかけによる「全国星空継続観察(スターウォッチング・ネットワーク)」に関連する行事。肉眼と双眼鏡による2種類の方法で星空を観察し、大気の状態や光害の程度を知る。目標は、天の川の中の「すばる(M45)〔プレアデス星団〕」。越知町は山間部に開けた町で、大気が澄んでいて光害も少なく、夜空がきれいである。



## 〔平成21年度博物館行事予定〕

- 3月28日(土)～6月7日(日)  
春季企画展：『鳥形山系の花たち』
- 7月18日(土)～9月6日(日)  
夏休み企画展：『土佐の貝』(仮称)
- 7月26日(日) 夏休み博物館教室〔昆虫〕
- 8月2日(日) 夏休み博物館教室〔植物〕
- 8月9日(日) 夏休み博物館教室〔工作〕
- 8月23日(日) 夏休み博物館教室〔化石〕
- 9月19日(土)～11月15日(日)  
秋季企画展：『土佐の野鳥たち』(仮称)
- 12月13日(日)～2月14日(日)  
冬季企画展

## 〔博物館友の会「フォレストクラブ」の平成21年度活動予定〕

- 4月12日(日)  
春の自然観察会－高知県立牧野植物園見学－

- 4月25日(土) 横倉山エボシ岩のアケボノツツジ観察会
- 5月5日(火・祝) 「呈茶」(博物館3階テラス)
- 5月 友の会運営委員会  
友の会総会
- 6月 仁淀川水質調べ「身近な水環境の全国一斉調査」とササユリ観察会  
炭焼き体験  
横倉山ヒメボタル観察会
- 7月 スターウォッチング－夏の天の川・こと座－
- 9月 秋の横倉山植物観察会
- 10月 視察研修〔1泊2日〕
- 11月 炭焼き体験
- 12月 クリスマスキャンドル作り
- 1月 2010年の初日の出を横倉山で  
スターウォッチング－冬の天の川・すばる－
- 2月 炭焼き体験

## スタッフの声、声、声

〔西森〕 そろそろ花見のシーズンになる。博物館に“気になる”桜があり、休館日だが、もうそろそろ花咲く時期と、行って見た。入り口の景色、メタセコイアの並木が「ようこそ、いらっしやい」と言っているようだ。この風景も四季折々に色々と表情を変え楽しませてくれるお気に入りの場所だ。問題の桜はその奥の右側の山手にある。幹の下半分は花を付けず、それから上に沢山の小さな花を付ける。この種の桜は、自分はまだ見たことがない。“ヒョウタンザクラ”というらしいが、小さくて愛らしい。

〔西川〕 先日、梶原町へ小水力発電の視察に行ってきました。今までは自然を壊していると思っていた水力発電もやり方次第で、風力や太陽光と同じ自然を生かしたエコにつながるものが解りました。「近くの谷川から簡単に電気が取り出せたらいいのに、いやきつと近い将来にはできる」と思ったことでした。

〔安井〕 今年の土佐路の冬は、1月中旬以降は暖かく、雪らしい雪も降ることがなかった。県外では2月に気温が真夏日を記録するなど、やはり地球は確実に温暖化に向って進んでいるのだろうか。気象だけでなく、今の世の中すべてが変で、“狂っている”ように見える。後を絶たない残忍な殺人、信じられないような医療ミス、警察官の“犯罪”、いじめによる若年層の自殺、等々。そんな暗い話題の中で、日本の月軌道周回衛星「かぐや」から送られてくる鮮明な月面と宇宙空間に浮かぶ青い神秘的な地球の映像が、我々人類の住む地球、宇宙のすばらしさとかけがいのなさを教えてくれる。自然は偉大で素晴らしく、美しいのだが……。

〔小松〕 博物館3階への階段脇に鉢植えにしているヤシャビシヤクがたくさんの花をつけた。杉原神社のすぐ傍の大き

なモミの木に着生していたもので、その老木化したモミを伐採した索道業者の方から「テンノメよ、えい匂いがするぞ」といただいた。毛の生えた実は本当によい香りがした。その後一時は枯れてしまうのではと心配することもあったが、館内の清掃の方々が毎日毎日世話を続け、今年の花となった。ありがたうらしい。

〔伊藤〕 近所の梅の花が瞬く間に散ったと思っていたら、庭のさくらんぼの花が満開になりました。去年初めて見た仁淀川町のひょうたん桜と中越家・市川家の枝垂れ桜に、毎年行く佐川の牧野公園での夜桜、博物館の周りの山桜とお花見の季節です。なんだかわくわくします。

〔小野〕 花粉症のためクシャミの回数で春が近づいていることを感じます。先日、高知市内を歩いていると髪がピンクの人を見かけました。こんな所にも春がきているのかと思ってしまった自分に笑ってしまいました。花粉症が治ったら花見がしたいなあ。



高知県越知町立

**横倉山**  
自然の森博物館



〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12  
TEL0889(26)1060 FAX0889(26)0620  
http://www.town.ochi.kochi.jp/

- 開館時間：午前9時より午後5時まで  
最終入館は午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)  
12月29日から翌年の1月3日まで
- 入館料：大人……………500円  
高校・大学生……………400円  
小・中学生……………200円  
(※各20名以上の上の団体は100円引き。)
- 越知への交通  
高知 — JR特急 約30分 — 佐川 — バス 約15分 — 越知  
JR普通 約50分

